

総合的病害虫・雑草管理(IPM)実践指標

～ぶどう～



青森県

令和8年3月

総合的病害虫・雑草管理「IPM」とは

総合的病害虫・雑草管理 (Integrated Pest Management=IPM)とは、農薬だけでなく様々な防除方法等を利用して、病害虫を経済的被害が生じない程度の低い密度に管理しようという考え方のことです。

「IPM」による病害虫防除の進め方

ステップ1【予防】

病害虫の発生しにくい環境を整備しましょう！

病害虫が発生しなければ防除も不要になります。また、病害虫が繁殖しやすい環境では、防除対策をどんなに行っても効果が上がらず、多大な労力が必要になります。

ステップ2【判断】

病害虫の発生状況を把握して、防除の要否を判断しましょう！

病害虫がいないのに薬剤防除を行うことは無駄なだけでなく、天敵などを減らしてしまい、かえって病害虫の発生を増加させることにもなりかねません。
病害虫の発生状況の確認はとても重要です。

ステップ3【防除】

防除が必要な場合は、最適な防除方法を選択しましょう！

防除が必要だと判断したら、耕種的防除から農薬まで、様々な防除方法から最適な方法を選択して防除をします。
間違った方法を選択しては、防除効果がありません。

本指標の活用方法

管理ポイントに取り組んでいる場合は、**チェック欄に点数を記入する**

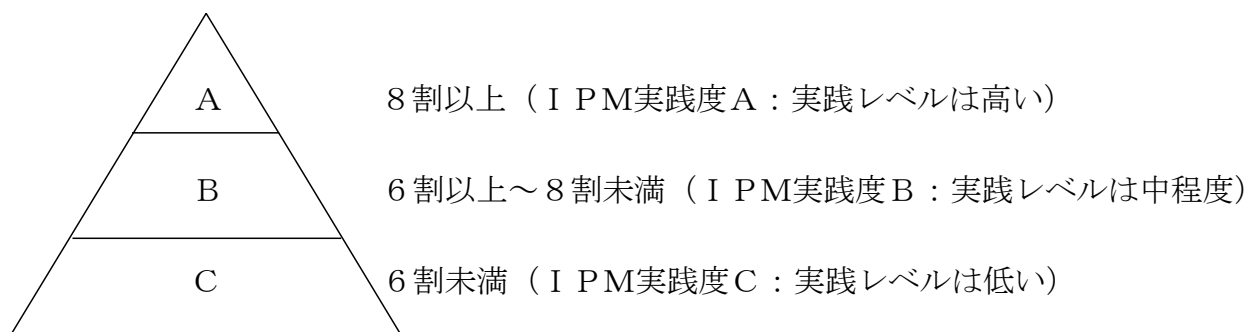
例)園地内の管理

No.	管理ポイント	対象 病虫害 ・雑草	点数	チェック欄		
				昨年 の 状況	今年 の 目標	今年 の 状況
6	【選択項目】苗木の植え付けは、病虫害の発生に注意して行っている。	病虫害 全 般	1	0	1	1
<p>○苗木の植え付け時の対策【全て実施して1点】</p> <p>①苗木の植え付け時には、病虫害の被害がない健全な苗木であることを確認している。</p> <p>②植え付け時には、植物残さ（木の根、枝など）を除去している。</p> <p>③植え付けの際は完熟堆肥、土壌改良資材を施用している。</p>						

【選択項目】は該当しない場合、採点から除く。

☆実践具合の判断基準☆

「チェック欄の点数の合計(I)」の「対象となるI PM項目の点数の合計(II)」に占める割合 ($I \div II \times 100$) によりI PMの実践レベルを判断する。



1. 環境整備(項目数:17~21個)

(1)園地周辺の管理

No.	管理ポイント	対象 病虫害 ・雑草	点数	チェック欄		
				昨年 の 状況	今年 の 目標	今年 の 状況
1	ぶどう園及びその周辺から病害の伝染源または中間寄主を除去している。	病虫害 全般	1			
<p>○伝染源、中間寄主の除去【いずれか実施して1点】</p> <p>①ぶどう園周辺にさび病の中間寄主であるアワブキがないことを確認している。または、ある場合は取り除いている。</p> <p>②ぶどう園周辺にあるぶどう以外の農作物も適正に管理している。</p>						

管理ポイント 1

ぶどう園周辺にアワブキがあると、ぶどうの葉にさび病が発生する可能性がある。



アワブキ
(さび病の中間宿主)



ぶどう葉裏のさび病被害



No.	管理ポイント	対象 病虫害 ・雑草	点数	チェック欄		
				昨年 の 状況	今年 の 目標	今年 の 状況
2	園地周辺にある放任園(樹)に対して、病虫害の密度を下げるための対策を講じている。	病虫害 全般	1			
<p>○放任園(樹)に対する対策【いずれか実施して1点】</p> <p>①ぶどう等の果樹園の放任園がないか常に確認している。</p> <p>②放任園が発生している場合は、関係機関及び関係者と協議し、放任園の解消に向けた取り組みを行っている。</p>						

管理ポイント 2



(2)園地内の管理

No.	管理ポイント	対象 病虫害 ・雑草	点数	チェック欄		
				昨年 の 状況	今年 の 目標	今年 の 状況
3	適正な栽植密度とし、作業性をよくし、農薬散布の死角をなくしている。	病虫害 全般	1			
4	通風をよくするため、結果枝を適正に配置し誘引を適切に行っている。	病虫害 全般	1			

管理ポイント 3



適正な栽植密度(列間)
 スチューベン: 2.5m
 シャインマスカット: 2.5~3m

管理ポイント 4



結果枝は片側 20~30cm程度
 の間隔で主枝両側に配置して
 枝が重ならないようにする。

No.	管理ポイント	対象 病虫害 ・雑草	点数	チェック欄		
				昨年 の 状況	今年 の 目標	今年 の 状況
5	適正な生育となるよう、土壌診断や樹体の生育状況の観察に基づき、適正に施肥をしている。	病虫害 全般	1			

管理ポイント 5

<土壌診断用の土壌の採取方法>

✕ 採土地点 採土地点から除外するところ
Y 周辺森林

採取地点 用水路、道路、日陰など周囲の影響を受けている場所は除外する。

採取量等 茶碗一杯程度の土壌を数か所から採取し、よくまぜあわせる。

採土部位
(柱状)

5cm
10~15cm

採取方法 土壌の上下で厚さが変わらないように採取する。

採取部位 表層より5cm程度は雑草の根の混入などがあるため取り除き、10~15cmを採取する。

土壌診断の問合せ先
 ・全国農業協同組合連合会青森県本部
 営農部 営農技術課 TEL:017-729-8641

-6-

No.	管理ポイント	対象 病虫害 ・雑草	点数	チェック欄		
				昨年 の 状況	今年 の 目標	今年 の 状況
6	【選択項目】苗木の植え付けは、病虫害の発生に注意して行っている。	病虫害 全般	1			
<p>○苗木の植え付け時の対策【全て実施して1点】</p> <p>①苗木の植え付け時には、病虫害の被害がない健全な苗木であることを確認している。</p> <p>②植え付け時には、植物残さ（木の根、枝など）を除去している。</p> <p>③植え付けの際は完熟堆肥、土壌改良資材を施用している。</p>						
7	園地の排水に努め、地表面の乾燥を図っている。	病害全般	1			
<p>○園地の乾燥対策【いずれか実施して1点】</p> <p>①排水を促すため、暗きょや明きょを設置し、点検して補修している。</p> <p>②融雪促進剤の散布などにより、消雪を早めている。</p>						

管理ポイント 7



園地にたまった雨水を小型ポンプ等で排水



融雪促進剤を散布した園地

No.	管理ポイント	対象 病虫害 ・雑草	点数	チェック欄		
				昨年 の 状況	今年 の 目標	今年 の 状況
8	樹冠下を清耕、樹列間を草生栽培とし、刈草を樹冠下へ敷草している。	病虫害 全般	1			

管理ポイント 8



下草を集めて樹冠下に敷く

No.	管理ポイント	対象 病虫害 ・雑草	点数	チェック欄		
				昨年 の 状況	今年 の 目標	今年 の 状況
9	病虫害の発生しにくい樹体にするため、完熟堆肥を適正に施用している。	病虫害 全般	1			
10	落葉、枯れ草、剪定枝などは、速やかに集めて処分している。	全般	1			
<p>○園地内清掃【いずれか実施して1点】</p> <p>①剪定した枝は、薬剤散布開始前までに処分している。</p> <p>②落果や樹冠下の敷草は、積雪前に処分している。</p> <p>③落葉等は園地にすき込む、または除去している。</p>						

管理ポイント 10



剪定枝を回収し、落葉等も集めて処分する。

No.	管理ポイント	対象 病虫害 ・雑草	点数	チェック欄		
				昨年 の 状況	今年 の 目標	今年 の 状況
11	園地の草生管理を適切に行い、園地周辺の除草などの清掃も行っている。	ツマグロ アオカスミ カメ、コウ モリガ	1			

管理ポイント 11



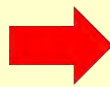
ヨモギなど、害虫の発生源となる雑草は除去し、園地の草生管理を適切に行う。

No.	管理ポイント	対象 病虫害 ・雑草	点数	チェック欄		
				昨年 の 状況	今年 の 目標	今年 の 状況
12	機械除草をする際は、樹体を傷つけないように注意している。	全 般	1			
13	病虫害(褐斑病、ブドウトラカミキリ、クワコナカイガラムシなど)の発生を助長しないように、粗皮はぎをしている。	病虫害 全 般	1			

管理ポイント 13



粗皮はぎ前



粗皮はぎ後



粗皮下のクワコナカイガラムシの卵のう
(卵が100~200個入っている)



粗皮下で越冬しているナミハダニ

No.	管理ポイント	対象 病害虫 ・雑草	点数	チェック欄		
				昨年 の 状況	今年 の 目標	今年 の 状況
14	晩腐病や黒とう病の越冬源である架線の巻きひげや被害枝、成り跡などを切り取って処分している。	晩腐病、 黒とう病	1			

管理ポイント 14



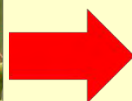
架線に残った巻きひげ

No.	管理ポイント	対象 病害虫 ・雑草	点数	チェック欄		
				昨年 の 状況	今年 の 目標	今年 の 状況
15	落花後に灰色かび病対策のために、花冠落としを行っている。	灰色かび病	1			

管理ポイント 15



花冠落とし前



花冠落とし後

No.	管理ポイント	対象 病虫害 ・雑草	点数	チェック欄		
				昨年 の 状況	今年 の 目標	今年 の 状況
16	病虫害の温床になる古くなった資材、遅伸びした不要な新梢や副梢等は、病虫害の発生時期も考慮に入れて、随時除去している。	病虫害 全般	1			
<p>○病虫害の温床の除去【全て実施して1点】</p> <p>①木製の支柱、結束ひもなどを更新あるいは随時除去している。</p> <p>②黒とう病、べと病、ツマグロアオカスミカメなどの発生を抑えるため、遅伸びした不要な新梢や副梢等を随時除去している。</p> <p>③枯死樹は直ちに伐採・抜根し、処分している。</p>						

管理ポイント 16



越冬準備をしているナミハダニ

結束ひもを残しておくと病虫害の越冬場所となるので、剪定時に交換する。



不要な副梢

No.	管理ポイント	対象 病害虫 ・雑草	点数	チェック欄		
				昨年 の 状況	今年 の 目標	今年 の 状況
17	【選択項目】例年病害が多発する園地では発生病害に応じて雨よけ、袋かけ、傘かけのいずれかを実施している。	灰色かび病、べと病、黒とう病、晩腐病	1			
<ul style="list-style-type: none"> ・灰色かび病、べと病及び黒とう病が多発する場合は、雨よけを実施する。 ・晩腐病が多発する場合は、雨よけや袋かけ、傘かけを実施する。 						

管理ポイント 17



雨よけ被覆



袋かけ



傘かけ

No.	管理ポイント	対象 病虫害 ・雑草	点数	チェック欄		
				昨年 の 状況	今年 の 目標	今年 の 状況
18	【選択項目】ハウス栽培では、換気に努め、ハウス内が過湿にならないようにしている。	灰色かび病	1			
19	果実をならせすぎないように、樹勢に応じた着房数にしている。	褐斑病	1			

管理ポイント 19

表 樹勢に応じた着房数

品 種	1結果枝当たりの葉数	房 数
キャンベル・アーリースチューベン等	13枚以下	全て摘房
	14～18枚	1果房
	20枚前後	1～2果房
	25枚以上	2果房
シャインマスカット	1結果枝当たり1果房	

No.	管理ポイント	対象 病虫害 ・雑草	点数	チェック欄		
				昨年 の 状況	今年 の 目標	今年 の 状況
20	【選択項目】生育の遅れによる防除適期のずれを防ぐため、凍寒害(眠り病)を受けやすい品種と幼木には防止対策を行っている。	病虫害 全般	1			
<ul style="list-style-type: none"> ・徒長、遅伸びを防止し、適正着果、早期落葉防止に努め、貯蔵養分の増加により樹体充実を図る。 ・冬期の寒さや乾燥から樹体を守るため、越冬前に防寒資材を利用して対策を行っている。 						

管理ポイント 20

眠り病による生育遅延の様子(H30.5.23撮影)



眠り病になった枝



正常な枝

※ 眠り病になった枝は、発芽、展葉が著しく遅れる。

防寒資材を利用した対策



↑ 主幹や主枝部を稲わらやポリエチレンフィルムなどの防寒資材で被覆する。

No.	管理ポイント	対象 病害虫 ・雑草	点数	チェック欄		
				昨年 の 状況	今年 の 目標	今年 の 状況
21	果房の腐敗防止に配慮し、収穫作業を行っている。	晩腐病等 の果房腐 敗	1			
<p>○果房の腐敗防止対策【全て実施して1点】</p> <p>①コンテナや収穫カゴは乾燥した清潔なものを使用している。</p> <p>②降雨時には収穫をしていない。</p> <p>③収穫時は病害虫の被害果房、障害果房を除去している。</p> <p>④収穫果は野積みせず、速やかに冷蔵庫等に搬入している。</p>						

管理ポイント 21



汚れたコンテナや収穫カゴは洗淨し、乾燥した清潔なものを使用する。



ブドウトリバによる被害果房



晩腐病の被害

収穫時は、病害虫の被害果房、障害果房を除去する。

2. 病害虫の防除要否及びタイミングの判断 (項目数:10~11個)

(1)IPMに関する知識の習得、病害虫発生予察情報等の確認

No.	管理ポイント	対象 病害虫 ・雑草	点数	チェック欄		
				昨年 の 状況	今年 の 目標	今年 の 状況
22	IPMの実践に必要な知識、防除技術の習得を積極的に行っている。	病害虫 全般	1			
<p>○知識・防除技術の習得方法【いずれか実施して1点】</p> <p>①IPMに関する情報を入手している。</p> <p>②IPMに関する研修会等に参加している。</p>						
23	生育状況や病害虫防除に関する情報を入手し、管理している。	病害虫 全般	1			
<p>○入手・管理する情報の種類【いずれかを実施して1点】</p> <p>①病害虫発生予察情報、病害虫発生情報、生産指導情報など。</p> <p>②農業普及振興室などが作成する情報など。</p> <p>③JAや市町村が発行する広報や栽培指導情報など。</p> <p>④その他の情報の入手。(参考としている情報名を記載する)</p>						

総合的病害虫・雑草管理（IPM）について

総合的病害虫・雑草管理（IPM）とは

総合的病害虫・雑草管理（Integrated Pest Management=IPM）とは、様々な防除手段を適切に組み合わせることにより、環境負荷を低減しつつ病害虫・雑草の発生を経済的被害以下に低く管理しようという考え方のことです。

総合的病害虫・雑草管理（IPM）実践指標について

農業だけに依存しない病害虫・雑草管理を行うには、状況や場所に応じて様々な手段を組み合わせる必要があります、容易に行えるものではありません。

このため、県では、生産者の方々がIPMに取り組みやすいように、下記の作物についてIPMの実践程度を生産者自らが簡単に評価できる指標「IPM実践指標」を作成し、公表していますので、ダウンロードの上、病害虫の防除の際に御活用ください。

また、副読本は、指標本体の内容を写真等を含めて解説したものですので、併せて御利用ください。

- IPM実践指標 水稲 A5版 (PDFファイル) 指標本体に副読本の内容も記載しています。
- IPM実践指標 りんご (PDFファイル) 指標本体に副読本の内容も記載しています。
- IPM実践指標 施設トマト(夏秋) (PDFファイル) 副読本 (PDFファイル[1530KB])
- IPM実践指標 なし (PDFファイル) 副読本 (PDFファイル[19541KB])
- IPM実践指標 もも (PDFファイル) 指標本体に副読本の内容も記載しています。
- IPM実践指標 大豆 (PDFファイル) 副読本 (PDFファイル[3052KB])
- IPM実践指標 ぶどう (PDFファイル) 副読本 (PDFファイル[2041KB])
- IPM実践指標 ながいも (H30改訂版PDFファイル) 指標本体に副読本の内容も記載しています。
- IPM実践指標 施設いちご (PDFファイル) 副読本 (PDFファイル[8581KB])

国のIPM関連情報

国の総合的病害虫・雑草管理（IPM）実践指針及び実践指標モデル（水稲、キャベツ、かんきつ、りんご、なし、トマト（施設栽培）、いちご（施設栽培）、大豆、さとうきび、茶、きく（露地栽培））はこちらで公開されています。

(↓クリックすると新しいウインドウで開きます)

<http://www.maff.go.jp/j/syoutan/syokubo/ipm/index.html>

<参考>

青森県農林水産部 農林水産政策課 ホームページ

<https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/nourin/nosui/ipm.html>



<問合せ先>

- ・東青農林水産事務所農業普及振興室
青森市長島2-10-3 青森フコク生命ビル6階
TEL : 017-734-9990
- ・中南農林水産事務所農業普及振興室
弘前市大字蔵主町4
TEL : 0172-32-1131
- ・三八農林水産事務所農業普及振興室
八戸市大字尻内町字鴨田7
TEL : 0178-27-5111
- ・西北農林水産事務所農業普及振興室
五所川原市栄町10
TEL : 0173-35-5719
- ・上北農林水産事務所農業普及振興室
十和田市西十二番町20-12
TEL : 0176-23-4281
- ・下北農林水産事務所農業普及振興室
むつ市中央1-1-8
TEL : 0175-22-2685

管理ポイント 23



新着情報

▼ カテゴリで絞り込む

▼ キーワードで絞り込む

2025.10.8

クマの出没に注意！今年はツキノワグマによる人身被害が多発しています

広報・イベント

本県では10月7日現在で8件8名の人身被害が発生しており、うち2件は農作業中に発生しています。また、クマは、…

2025.10.8

高校生を対象とした就農PRフェアの出展者募集します

広報・イベント

県では、進路選択に直面する高校生を対象に、本県農業を魅力ある職業として認識してもらう機会として、農業法人等が生…

2025.10.7

2025年りんご‘ふじ’熟度調査結果（りんご研究所、10月7日現在）

りんご・特産果樹

概要 無袋：10月7日現在、平年値と比較して、糖度及びヨード反応は同程度、硬度、酸度及び着色指数は低い。有袋…

2025.10.7

2025年りんご‘ジョナゴールド’熟度調査結果（りんご研究所、10月7日現在）

りんご・特産果樹

概要（無袋）10月7日現在、平年値と比較して、糖度は高く、硬度、ヨード反応及び着色指数は同程度、酸度はやや低…

2025.10.7

2025年りんご‘トキ’熟度調査結果（りんご研究所、10月7日現在）

りんご・特産果樹

概要 10月7日現在、平年値と比較して、表面色指数はやや高く、硬度、糖度及びヨード反応は同程度、酸度はやや低い…

2025.10.3

【追加募集】令和7年度青森県（農業分野）県外人材雇用受入環境整備支援事業の募集のお知らせ

補助事業・制度資金 農業経営

追加募集を行います。ご活用をご検討ください。(注)：対象となる事業は、未実施のもの（交付決定後に着手）であり…

➡ 農業情報一覧

<参考>

農ナビ青森 農業情報

<https://www.nounavi-aomori.jp/farmer/>



(2)防除要否の判断

No.	管理ポイント	対象 病虫害 ・雑草	点数	チェック欄		
				昨年 の 状況	今年 の 目標	今年 の 状況
24	入手した生産情報・病虫害予察情報等に基づいて、病虫害防除・薬剤散布を実施している。	病虫害 全般	1			
25	自らがほ場を見回り、現在の病虫害の発生状況を確認しながら、前年の病虫害の発生状況も考慮に入れて、防除の必要性を判断している。	病虫害 全般	1			
<p>予防が必要な病虫害は、前年の発生状況や、ほ場の環境条件などから防除要否を判断している。</p>						

管理ポイント 25

前年に病害虫の発生が多く見られた場合は防除対策をする。



表

裏

べと病の発病葉



カスミカメムシ類の被害葉



成虫(体長約1mm)



葉の被害



穂軸の被害



果粒の被害

チャノキイロアザミウマ



葉の被害

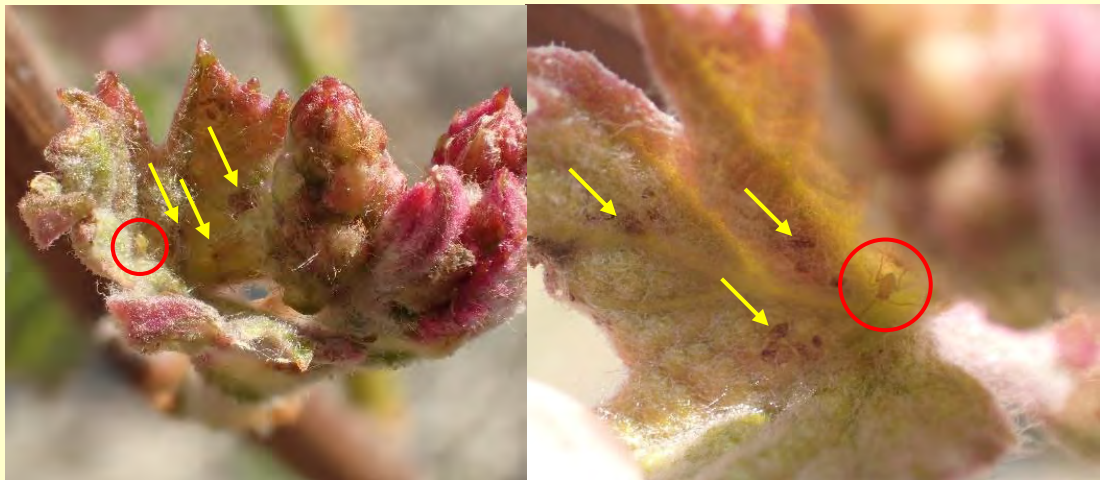
フタテンヒメヨコバイ

No.	管理ポイント	対象 病害虫 ・雑草	点数	チェック欄		
				昨年 の 状況	今年 の 目標	今年 の 状況
26	幼虫の発生状況あるいは加害状況を確認して、防除の可否を判断している。	カスミカメムシ類、 コウモリガ	1			
<ul style="list-style-type: none"> ・カスミカメムシ類の幼虫の発生状況を展葉直前に観察し、「展葉直前頃（5月上旬）」の防除の可否を判断している。 ・コウモリガの加害状況を6月上旬まで観察し、「6月上旬」の防除の可否を判断している。 						

管理ポイント 26



ツマグロアオカスミカメ幼虫



ツマグロカスミカメによる展葉直前の被害

矢印:被害、○印:幼虫

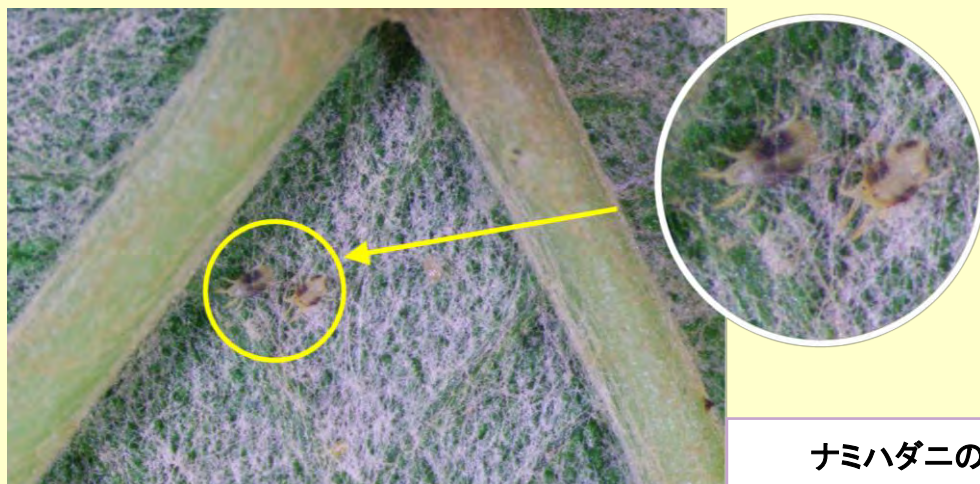
No.	管理ポイント	対象 病害虫 ・雑草	点数	チェック欄		
				昨年 の 状況	今年 の 目標	今年 の 状況
27	成虫の飛来状況を確認して、防除の要否を判断している。	コガネムシ類	1			
28	ハダニ類の寄生状況を確認して防除の要否を判断している。	ハダニ類	1			

管理ポイント 27



マメコガネ成虫

管理ポイント 28



ナミハダニの成虫

No.	管理ポイント	対象 病害虫 ・雑草	点 数	チェック欄		
				昨年 の 状況	今年 の 目標	今年 の 状況
29	【選択項目】 果房を長期貯蔵する場合には、腐敗防止対策のために、薬剤散布の要否を貯蔵期間に応じて判断している。	灰色かび病	1			
30	自園の栽植品種を把握し、品種により特異的に発生する病害を考慮した防除計画を作成して、薬剤散布を実施している。	べと病、 褐斑病、 灰色かび病	1			
<p>・「スチューベン」や「シャインマスカット」でべと病の発生が多い場合には「落花直後」にも散布を行う。また、例年、秋季に葉での発生が多い園地の場合、「スチューベン」では「8月中旬」に、また、「シャインマスカット」では「8月下旬」にも薬剤散布を行う。</p> <p>・「キャンベル・アーリー」では褐斑病対策として「新梢伸長期（約20cm）」～「8月上旬」まで有効薬剤を散布する。</p> <p>また、灰色かび病対策として「開花10日前頃（6月上旬）」の散布後、低温が続いて次回の「開花直前」まで散布感覚が開きすぎる場合には、多発が懸念されるので、「開花見込みの1週間前頃」に薬剤散布を追加する。</p>						

管理ポイント 30



べと病の発病葉(裏)



褐斑病の発病葉

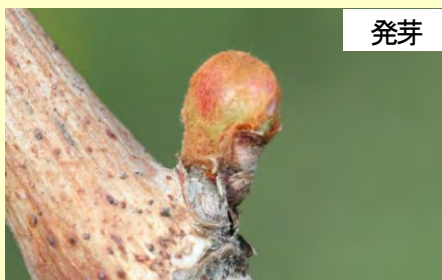


灰色かび病の発病花穂

(3) 防除タイミングの判断

No.	管理ポイント	対象 病虫害 ・雑草	点数	チェック欄		
				昨年 の 状況	今年 の 目標	今年 の 状況
31	最適な散布時期を判断するため、自らのほ場を見回り、発芽日、展葉日、開花日、落花日を把握している。	病虫害 全般	1			
32	散布予定日に降雨が予想される場合は、事前散布に徹している。	病虫害 全般	1			

管理ポイント 31



発芽

発芽日

樹全体の20%以上の芽が発芽した日
(葉の緑色が見えた日)



展葉

展葉日

樹全体の20%以上の芽が展葉した日
(第1葉が展開した日)



開花

開花日

20%以上開花した花穂が樹全体の
80%以上になった日



落花

落花日

70%以上花冠、雄ずいの脱落した
花穂が樹全体の80%以上になった日

3. 様々な防除対策の実施(項目数:4個)

(1) 化学農薬によらない防除対策

No.	管理ポイント	対象 病虫害 ・雑草	点数	チェック欄		
				昨年 の 状況	今年 の 目標	今年 の 状況
33	化学農薬によらない病虫害対策・雑草管理を実施している。	病虫害・雑草全般	1 ↳ 3			
<p>※以下の対策を実施している場合、1つの対策毎に1点。 ○化学合成農薬によらない病虫害対策・雑草管理</p>						
<p>①被害葉、被害花穂、被害果粒、被害果房、被害枝などの被害部位を見つけ次第、処分している。(晩腐病、灰色かび病、べと病、褐斑病、黒とう病、ブドウトラカミキリ、ブドウスカシバ、ブドウトリバ対策等)</p>						
<p>②害虫の発生(クワコナカイガラムシの卵のう、コガネムシ類の成虫、コウモリガの幼虫)を見つけ次第、捕殺あるいは除去している。</p>						
<p>③樹冠下は中耕や機械除草を実施している。</p>						

管理ポイント 33

○被害部位(被害葉、被害枝、被害花穂、被害果粒、被害果房など)を見つけ次第処分する。



晩腐病(発病果粒)



発病葉

発病枝

開花前の発病花穂

灰色かび病



発病葉

発病枝

発病果

黒とう病



発病葉(表)

発病葉(裏)

発病果

べと病

管理ポイント 33

○害虫の発生を見つけ次第、捕殺あるいは除去する。



幼虫



ぶどう苗木の被害
(木の中心部を食害する)

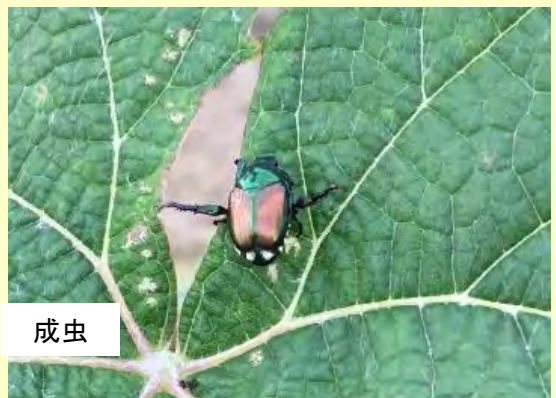
ブドウスカシバ



被害果

ブドウトリバ

(1頭の幼虫が複数の果粒を加害する)



成虫

マメコガネ

No.	管理ポイント	対象 病害虫 ・雑草	点数	チェック欄		
				昨年 の 状況	今年 の 目標	今年 の 状況
34	天敵の保護を考慮して薬剤を使用している。	農薬全般	1			
有機リン剤、合成ピレスロイド剤、ネオニコチノイド剤などの殺虫剤は多用せず適正に使用している。						

管理ポイント 34



カブリダニ類
(ハダニ類の天敵)



天敵のカブリダニ類

害虫のナミハダニ

4. 農薬使用(項目数:11個)

(1) 化学農薬によらない防除対策

No.	管理ポイント	対象 病虫害 ・雑草	点数	チェック欄		
				昨年 の 状況	今年 の 目標	今年 の 状況
35	農薬の使用に当たり、農薬毎に定められている使用基準及び遵守事項をよく読んで、その使用方法を守っている。	農薬全般	1			
<p>○適正使用基準及び遵守事項【全て実施して1点】</p> <p>①ラベルの表示を確認するとともに、指導機関等に最新の使用方法を入手している。</p> <p>②使用量、濃度、使用時期、使用回数、成分総使用回数を厳守している。</p>						
36	薬剤散布に当たっては、残液が出ないように散布面積に応じ薬液量を調製している。	農薬全般	1			
37	指導機関が実施する講習会や研修会に積極的に参加して、農薬安全使用に関する知識を得ている。	農薬全般	1			
38	除草剤の使用に当たっては、草種と発生状況を確認し、適切な剤を選択し、使用基準に基づき使用している。	雑草全般	1			

No.	管理ポイント	対 象 病虫害 ・雑草	点 数	チェック欄		
				昨年 の 状況	今年 の 目標	今年 の 状況
39	農薬の散布に当たって、近隣の生産者と連携し飛散防止対策を実施している。	農薬全般	1			
<p>○近隣の生産者と連携した飛散防止対策【全て実施して1点】</p> <p>①周囲の生産者と薬剤散布等について話し合いをしている。</p> <p>②周囲の作物の植栽状況と収穫時期を把握している。</p>						
40	使用した機械、器具、タンク等を速やかに洗浄している。	農薬全般	1			
<p>○使用機械、器具等の洗浄【全て実施して1点】</p> <p>①散布前に使用する機械、器具、タンク等がきちんと洗ってあるか確認し、不十分な場合は再度洗浄している。</p> <p>②散布後は使用した機械、器具、タンク等を速やかに洗浄している。</p>						
41	使用残の薬液や洗浄後の水は適正に処分している。	農薬全般	1			
<p>○使用残の薬液等の適正処分【全て実施して1点】</p> <p>①使用した機械、器具、タンク等の洗浄水は、水路、河川等に流れ込まないようにしている。</p> <p>②使用残の農薬や有効期限切れの農薬、農薬の空容器等は、産業廃棄物処理業者に委託するなど適正に処分している。</p>						

(2) 飛散防止対策

No.	管理ポイント	対象 病害虫 ・雑草	点数	チェック欄		
				昨年 の 状況	今年 の 目標	今年 の 状況
42	周囲への飛散防止に努めている。	農薬全般	1			
<p>○周囲への飛散防止対策【全て実施して1点】</p> <p>①風向に注意して農薬を散布している。また、風の強い日は散布を中止している。</p> <p>②散布の際には、適正な散布圧力や散布量の選択など、基本対策を遵守している。</p> <p>③周囲の作物と適用作物が共通する農薬をできるだけ選択している。</p>						
43	薬剤の飛散防止対策として飛散しにくい散布方法や飛散防止機器などを利用している。	農薬全般	1			
<p>○飛散防止対策【いずれか実施して1点】</p> <p>①飛散しにくい散布方法：スピードスプレーヤの片側散布、低風量散布、動力噴霧機による手散布など。</p> <p>②飛散しにくい散布機器：ドリフト低減ノズルなど。</p> <p>③その他の飛散防止方法：防薬ネットの設置など。</p>						

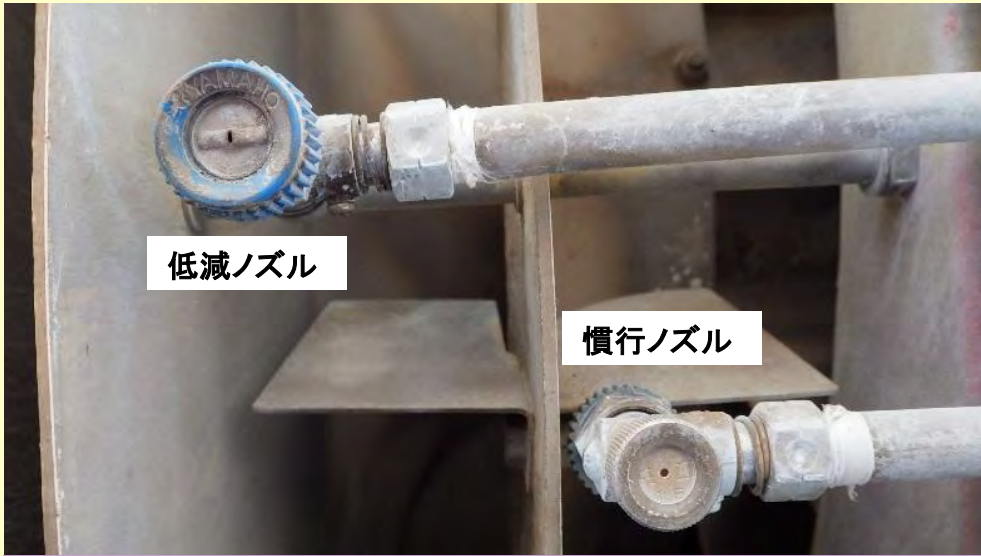
管理ポイント 43



スピードスプレーヤの片側散布

片側散布の際、ドリフトしないように遮風板を併用する。

管理ポイント 43



低減ノズル

慣行ノズル

ドリフト低減ノズル



防薬ネット

(3) 薬剤耐性・抵抗性対策

No.	管理ポイント	対象 病虫害 ・雑草	点数	チェック欄		
				昨年 の 状況	今年 の 目標	今年 の 状況
44	薬剤抵抗性の発現を防止するため、同一系統薬剤の連用を避けている。	病虫害 全般	1			
45	薬剤散布後の防除効果を観察し、薬剤抵抗性の発現も考慮して、使用する農薬を決めている。	病虫害 全般	1			

5. その他(項目数:3個)

(1) 作業日誌等の記帳・保管

No.	管理ポイント	対象 病虫害 ・雑草	点数	チェック欄		
				昨年 の 状況	今年 の 目標	今年 の 状況
46	一般的な栽培管理状況や病虫害等の発生状況、農薬(殺菌剤、殺虫剤、殺ダニ剤、除草剤、植物生長調整剤等)の使用状況などを記録し、保管している。	病虫害・ 雑草全般	1			
<p>○記録の内容【全て実施して1点】</p> <p>①耕種概要(栽培品種名、栽植様式、植栽本数)、施肥(資材名、施用時期・施用量)などの記録。</p> <p>②発生し問題となった病虫害・雑草の種類・薬害の様相、発生経過の記録。</p> <p>③農薬の使用履歴(農薬名、希釈倍数、使用月日、使用面積、使用量)、散布(設置)方法、散布効果の記録。</p> <p>④農薬以外の防除対策、耕種作業の内容や実施時期の記録。</p> <p>⑤記録は1年以上保管している。</p>						

管理ポイント 44

殺菌剤

薬剤名	FRACコード
パスポート顆粒水和剤	M5
デランフロアブル	M9
ベンレート水和剤	1
ゲッター水和剤	10
	1
フルーツセイバー	7
フルピカフロアブル	9
ジマンダイセン水和剤	M3
ロブラール水和剤	2
キノドール水和剤40	M1
アリエッティC水和剤	M4
	P7
オーソサイド水和剤80	M4
スイッチ顆粒水和剤	9
	12
ポリオキシンAL水和剤	19

殺菌剤

薬剤名		FRACコード
チウラム剤	チオノックフロアブル	M3
	トレノックスフロアブル	M3
DMI剤	インダーフロアブル	3
	オンリーワンフロアブル	3
	ベランティーフロアブル	3
アミスター10フロアブル		11
ホライズンドライフロアブル		27
		11
ストロビードライフロアブル		11
ピクシオDF		17
ランマンフロアブル		21
ライメイフロアブル		21
レーバスフロアブル		40
ICボルドー66D		M1

殺虫剤

薬剤名		IRACコード
有機リン剤	ガットキラー乳剤	1B
	ガットサイドS	1B
パダンSG水溶剤		14
ネオニコチノイド剤	ベストガード水溶剤	4A
	モスピラン顆粒水溶剤	4A
	スタークル顆粒水溶剤	4A
	アルバリン顆粒水溶剤	4A
ピレスロイド剤	アグロスリン水和剤	3A
	アディオンフロアブル	3A
ジアミド剤	ヨーバルフロアブル	28
	テツパン液剤	28
スピノシン剤	ディアナWDG	5
	デリゲートWDG	5

殺ダニ剤

薬剤名	IRACコード
マイトコーネフロアブル	20D
カネマイトフロアブル	20B

- ・ストロビルリン単剤のアミスター10とストロビードライフロアブル及び同じ系統の混合剤であるホライズンドライフロアブルは、薬剤耐性発達の懸念があるので、合わせて年2回以内の使用とする。ただし、ストロビルリン単剤は年1回以内の使用とする。
- ・ランマンフロアブルとライメイフロアブルは同じ系統の薬剤であり、薬剤耐性の懸念があるので、合わせて年1回の使用にとどめる。
- ・DMI剤は薬剤耐性の懸念があるので、年1回の使用にとどめる。
- ・フルーツセイバーは薬剤耐性の懸念があるので、年1回の使用にとどめる。
- ・レーバスフロアブルは薬剤耐性の懸念があるので、年1回の使用にとどめる。
- ・ベンレート水和剤を使用する場合は、ゲッター水和剤を使用しない。
- ・ゲッター水和剤を使用する場合は、ベンレート水和剤を使用しない。
- ・殺ダニ剤は薬剤抵抗性が出やすいので、同じ系統の薬剤は年1回の使用とする。

同一系統及び同一成分薬剤の例
(令和8年度農作物病害虫防除指針より)

(2) 農薬使用の周知

No.	管理ポイント	対象 病虫害 ・雑草	点数	チェック欄		
				昨年 の 状況	今年 の 目標	今年 の 状況
47	住宅地、学校、道路等の周辺で農薬を使用する場合は、事前に周知している。	農薬全般	1			
<p>周辺住民の健康に配慮し、事前に農薬使用の目的、散布日時、使用農薬の種類及び農薬使用者等の連絡先を十分な時間的余裕をもって幅広く周知している。</p>						

(3) 農薬の適正保管

No.	管理ポイント	対象 病虫害 ・雑草	点数	チェック欄		
				昨年 の 状況	今年 の 目標	今年 の 状況
48	農薬は冷暗所に、毒・劇物と普通物をその目的別に分けて適切に保管し、施錠している。	農薬全般	1			
<p>農薬は施錠できる冷暗所で、毒・劇物と普通物を殺菌剤、殺虫剤、除草剤等、その目的別に分けて、ビン等の転倒防止対策を行い保管・施錠している。</p>						

管理ポイント 48

適切な農薬の管理



IPMの実践程度	チェック欄		
	昨 年 の 状 況	今 年 の 目 標	今 年 の 状 況
I P M実践項目の合計の点数（Ⅰ）			
対象となる I P M項目の点数の合計（Ⅱ）			
I P M実践度（Ⅰ ÷ Ⅱ × 100）			
<p>○ I P M実践度の判断基準</p> <p>I P M実践度 A : I P Mの実践レベルは高い（8割以上）</p> <p>I P M実践度 B : I P Mの実践レベルは中程度（6割以上～8割未満）</p> <p>I P M実践度 C : I P Mの実践レベルは低い（6割未満）</p>			

➤ **病害虫防除、IPM実践指標に関する問合せ先**

○青森県病害虫防除所

TEL:017-729-1717

➤ **ぶどうの病害虫防除に関する問合せ先**

○地方独立行政法人青森県産業技術センター りんご研究所 県南果樹部

TEL:0178-62-4111

➤ **IPM実践指標に関する問合せ先**

○青森県農林水産部 農林水産政策課

TEL:017-734-9702

➤ **ぶどうのIPM実践指標に関する問合せ先**

○青森県農林水産部 りんご果樹課

TEL:017-734-9492

本冊子への写真提供機関

地方独立行政法人青森県産業技術センター りんご研究所